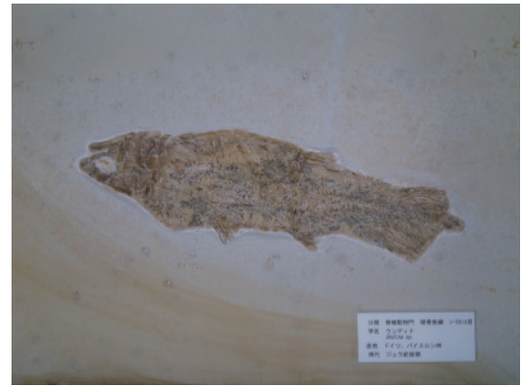
収蔵コレクション展 2014-2016

2012 年、博物館開館 20 周年を記念して本館2階を一部改装し、20 年の間に収集してきた 100 万点を超える博物館資料の一部を公開する「ひとはく多様性フロア」として再整備を行いました。博物館資料は、公共の財産として市民に広く公開し利用に供する必要がありますが、一方で半永久的に保存する義務があります。資料の末長い保全を考えるとき、すべての資料を人の目に触れる空間に長期間置くことは困難です。そこで短い期間ではありますが、博物館が誇るコレクションを、収蔵コレクション展という形で一定期間お見せしようということで、2014 年から 3 年の間、夏季休業期間を含めて 4 カ月程度開催することにしました。

カスザメの化石（ゾルンホーフェン産）



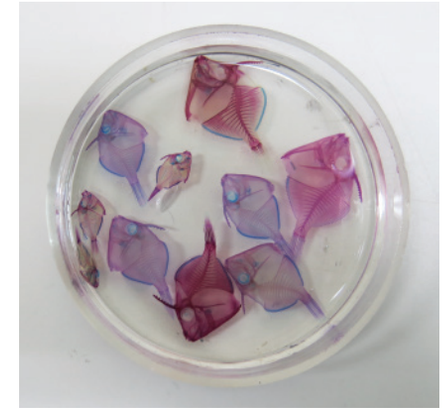
シーラカンスの仲間の化石（ゾルンホーフェン産）

1 年目の 2014 年は「ゾルンホーフェンの化石展－1 億 5 千万年前の記憶」と題して、ひとはく所蔵のゾルンホーフェン産化石を中心に借用標本も合わせて約 20 点、7 月 19 日～ 11 月 3 日の日程で開催しました。この企画展では一つの試みとして、ゾルンホーフェンで化石となって産出する生物の、現代に生きる子孫を合わせて展示しました。化石と現生生物を対比させることで、1 億 5 千万年の時の流れを感じて頂くという趣旨でした。関連講座や 9 月 21 日に実施した関連講演会も、いずれも好評のうちに終了しました。

博物館の標本と一口にいっても、その作り方、形は様々です。植物は押し葉にして採集地や採集場所を記したラベルと共に台紙に張り付けますし、昆虫の場合はラベルと共に細いピンで刺し、箱の中に収めます。動物の場合は毛皮や骨格だけを標本にします。2 年目の 2015 年は、「標本」という一言では語りきれない種類と作り方について解説する展示を試みました。

魚類のプラスチネーション標本

関連講座では 7 月 20 日に「解剖の日」というワークショップ ,10 月 25 日に「自然史標本を魅せる多様なアプローチ」という公開講座を開催し、どちらも大好評でした。



魚類の透明標本

3 年目となる 2016 年は、自然環境マネジメント研究部が長年収集してきた古写真を資料として読み解き、兵庫のくらしの昔と今の物語を紡ぐ予定です。どうぞご期待ください。

収蔵コレクション展 2014-2016 プロジェクト
代表者：生涯学習推進室 展示マネージャー
分担者：古谷裕，菊池直樹，三橋弘宗，大平和弘
協力者：自然・環境評価研究部，自然・環境マネジメント研究部他
財源：県費